

若者が育つ町づくりを

飯南町初代議長 那須 穂士輝さん

議会報発行50号を記念し、新飯南町発足から13年を顧みて、合併の当時議長であった那須さんにお話を伺いました。

今、議会に思うことは

時代の趨勢に対応できるような、若い議員や女性議員が誕生することが求められる。

議会基本条例が策定中と聞いている。これの施行には、大いに期待もてる。これにより、住民との距離が縮まるのではないかと、そんな議会人になってもらいたい。

集落の会議に出席した時などで発言の機会を得て、議会の報告をするとか、機会あるごと

明日を拓く



に住民との対話を大切にしてほしい。

多くの局面に臨まれて

一番印象に残ったことは

サブ口島根は忘れることが出来ない。自生している笹を採取して出荷し、これを加工することで商品化する仕組みは素晴らしいと感じていた。しかし、操業に当たり、顧客の安定化が見えなかった。

サブ口島根の設立、先行投資、先行資材の発注、出資金の還付不能など、行政、企業、取引先の中に入って公平な立場での調整に苦慮した。寝不足の日が続ぎ、東京へ行ったり来たり、一番つらい思い出だ。

飯南町に期待することは

職員の活気を取り戻さなくてはいいけない。

意欲のあるーターン者には



那須さん

支援しつつ、ーターンが促進される施策を講じて、若者が育つ町づくりに努めてほしい。

本気で當農やっている組織を、もっと育てていかなければならない。

少子・高齢化問題、儲からない農業問題もある。これらの対応が急務だ。もっと知恵を絞るべきと考える。

若者に活気を沸かせる制度、つまりU・ーターンいずれの若者達とも議員が虚心坦懐に意見交換し、将来に望ましい飯南町づくりに会を重ねてはどうだろう。

今月の表紙写真



新庁舎の議場での議会には、襟を正して臨む雰囲気を感じられます。ケーブルテレビで家庭に議会中継されるようになり、いずこの議会も「品格」を意識するようになったといえます。また、傍聴者だけでなく、テレビでも観られているので、一般質問もよく精査して登壇することが求められます。執行部が示す町運営の方向に、町民の代表として責任ある判断を行う議会議員の責務は、重にして大なるものがあります。

編集後記

梅雨の時期になった今も雨は少なく、天候の異変による農作物の生育が心配されます。

そうしたなか、飯南町議会議員として任期最後の議会となる6月定例会が6月16日閉会しました。10人の議員がこの4年間、町民の皆さんの「安心・安全な暮らし」を守るために互いに切磋琢磨し、議会活動や議員活動に励んでまいりました。

議会報では、そうした議会活動や町行政の内容を、町民の皆さんに「見やすく・分かりやすく」お伝えできるよう、議会広報編集委員全員で努力し、編集してまいりました。読まれてご理解いただけましたら幸いです。4年間のご支援ご協力ありがとうございました。

議会広報編集委員会 高橋 英次

